

2012年3月27日 日本数学会 2012年度年会

---

$K3$  曲面のネロン・セベリ格子に自明に作用する  
非シンプレクティック自己同型

---

瀧 真語 (Shingo Taki)

東京電機大学情報環境学部

# 1 はじめに

---

$X$  :  $K3$  曲面 .

$\omega_X$  : 至るところ消えない 2-form .

$$S_X := \{x \in H^2(X, \mathbb{Z}) \mid \langle x, \omega_X \rangle = 0\}$$

$$T_X := \{y \in H^2(X, \mathbb{Z}) \mid \langle x, y \rangle = 0, \forall x \in S_X\}$$

今回は

- $\varphi^*|_{S_X} = \text{id}$
- $\varphi^*\omega_X = \zeta\omega_X$  (  $\zeta$  は 1 の原始  $\text{ord } \varphi$  乗根 . )

をみたく自己同型  $\varphi$  の話 .

## 2 何が問題か？

---

既に知られている事

- $\text{ord } \varphi$  の値 .
- $\text{ord } \varphi$  が素数または合成数の場合 .
- $\text{ord } \varphi$  が3ベキまたは5ベキの場合 .
- $\text{ord } \varphi$  が2ベキで  $\text{rk } T_X$  と等しい場合 .

などが Nikulin, Kondo, Oguiso, Zhang, Artebani, Sarti, Schütt, T 達によって調べられた .

$\text{ord } \varphi$  が2ベキの場合は完全に分かったわけではない .

例えば,  $\text{rk } T_X$  が偶数ならば,  $X$  は位数4の  $\varphi$  を持つ可能性がある .

### 3 2-elementary 格子

---

**命題** .  $X$  が 2 ベキ位数の  $\varphi$  を持つ場合 ,  $S_X$  は 2-elementary 格子になる . すなわち ,  $S_X^*/S_X \simeq (\mathbb{Z}/2\mathbb{Z})^a$

たとえば  $D_4$  は  $a = 2$  の 2-elementary 格子 .

$U = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$  は  $a = 0$  の 2-elementary 格子 .

適当な条件付の 2-elementary 格子は分類可能で ,  $S_X$  をリストアップすることができる .  $(\text{rk } S_X, a, \delta)$  で特徴付け .

**定義** .

$$\delta = \begin{cases} 0 & \text{if } x^2 \in \mathbb{Z}, \forall x \in S_X^*, \\ 1 & \text{otherwise.} \end{cases}$$

## 4 主定理

---

**主定理** .  $X$  が位数4の  $\varphi$  を持つとき ,  $S_X$  は  $U \oplus E_8(2)$  ,  $U(2) \oplus E_8(2)$  ,  $U \oplus D_4^{\oplus 3}$  ,  $U \oplus D_8^{\oplus 2}$  以外の  $\delta = 0$  な 2-elementary 格子で , 固定点集合は

$$\left\{ \begin{array}{ll} \{P_1, P_2, \dots, P_4\} & \text{if } \text{rk } S_X = 2, \\ \{P_1, P_2, \dots, P_6\} \amalg E_1 & \text{if } \text{rk } S_X = 6, \\ \{P_1, P_2, \dots, P_8\} \amalg E_1 \amalg E_2 & \text{if } \text{rk } S_X = 10, \\ \{P_1, P_2, \dots, P_{10}\} \amalg E_1 \amalg E_2 \amalg E_3 & \text{if } \text{rk } S_X = 14, \\ \{P_1, P_2, \dots, P_{12}\} \amalg E_1 \amalg E_2 \amalg E_3 \amalg E_4 & \text{if } \text{rk } S_X = 18, \end{array} \right.$$

という形をしている .  $P_i$  は孤立点 ,  $E_j$  は非特異有理曲線 .

## 5 証明の概略

---

1. 2次形式の簡単な計算により,  $\delta = 1$  のとき  $T_X$  は  $\varphi$  を導くような位数4の isometry を持たない.

$\rightsquigarrow S_X$  の候補は16種類.

2. レフシェッツの公式により,

$$\begin{cases} \text{孤立固定点の数} & = (\text{rk } S_X + 6)/2 \\ \text{固定点集合のオイラー数} & = \text{rk } S_X + 2 \end{cases}$$

3. 位数2の非シンプレクティック自己同型 ( $= \varphi^2$ ) の固定点集合の様子を手掛かりに, ケース・バイ・ケースで調べる.

位数8, 16の場合の基本戦略は同じ.